

HONDA
The Power of Dreams

How we move you.
CREATE ▶ TRANSCEND, AUGMENT

INSIGHT

PRESS INFORMATION 2026.4.16



Hondaの環境車を牽引する存在として。

INSIGHT(インサイト)は、世界最高燃費※を実現したHonda初のハイブリッド車として、1999年に誕生しました。2009年発売の2代目では、「世の中に役立つ技術は、誰もが手にできてこそ意味がある」という考えのもと、お求めやすい価格で普及に貢献。ハイブリッド車が当たり前となった2018年には、優れた環境性能に加えクルマとしての本質的な魅力を高めることで、環境車のさらなる普及に努めてきました。「INSIGHT(洞察力)」という車名のとおり、「新しい時代の到来を洞察するクルマ」としてHondaの環境車を牽引してきたのです。誕生から四半世紀を過ぎ、自動車を取り巻く環境は大きく変わりました。カーボンニュートラル

という、より高次の目標へ向けてINSIGHTが選んだ道は、走行中にCO2を一切排出しないEV(電気自動車)への進化。人気の高いクロスオーバーSUVスタイルを採用し、魅力的な外観と圧倒的な心地よさ、さらに、EVならではの力強い走りを融合させることで、他に類のない個性的なEVを完成させました。

初代INSIGHTがハイブリッド車普及の先駆けとなったように、新型INSIGHTは、ガソリン車やハイブリッド車に慣れ親しんだ日本のお客様にEVという新たな選択肢を提供し、普及の先駆者としてカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

1st 1999~



燃費世界一※を達成した
パーソナルハイブリッドカー

2nd 2009~



お求めやすい価格を実現した
「みんなのハイブリッド」

3rd 2018~



クルマとしての本質的な魅力を
追求したミドルセダンハイブリッド

4th 2026~



EV本格普及の扉を拓く
電動クロスオーバーSUV

CONTENTS

はじめに	インテリア	オーディオ&コネクティビティ
開発にあたって	パッケージ	安全性能
開発コンセプト	ダイナミック性能	主要装備/主要諸元/環境仕様
エクステリア	パワーユニット	
.....P2P9P25
.....P3P13P28
.....P4P16P31
.....P5P22	

※ 1999年時点、量産ガソリン車として。

EVへの乗り換え意欲を喚起する魅力的なクロスオーバーSUVの創造。

日本におけるハイブリッド車普及の歴史を振り返ると、登場から約10年間は販売台数の伸び率が低い黎明期にあり、その後、各社のラインアップ拡充とエコカー補助金の相乗効果によって急速に拡大した経緯が浮き彫りとなります。こんにちの日本におけるEVは、かつてのハイブリッド車と同様の黎明期にあり、本格普及へ向けた助走段階なのだと考えてきました。

では助走段階の市場を切り拓くEVとはどうあるべきかと考えたとき、「社会受容性」という言葉にたどり着きます。ガソリン車やハイブリッド車から乗り換えても遜色のない使い勝手と航続距離、人々の目を引きつけながらも街になじむたたずまい、それらに、EVならではの静かで力強い走りを融合させることで、EVへの乗り換え意欲を喚起する魅力的なSUVを創造したいと考えたのです。

開発にあたっては、かつての日本車が欧州に学んだように、いまやEV先進国となった中国の市場においても競争力のあるEVとなるよう鍛え上げてきました。一方、EVであることを声高に主張するのではなく、クルマとしての完成度に主眼をおいて磨き上げてきました。その結果、ガソリン車やハイブリッド車に勝るとも劣らない魅力的なクロスオーバーSUVを完成させることができましたと自負しています。

新型INSIGHTが多くのお客様に支持され、日本におけるEV本格普及の一助となることを願ってやみません。



新型INSIGHT開発責任者
小池 久仁博 こいけくにひろ

1989年、本田技研工業株式会社入社。1993年に株式会社本田技術研究所に転籍し、ペダル設計やシフター設計に従事。2011年より、3代目FITやCLARITY FUEL CELLのシャシー設計プロジェクトリーダーを務めたのち、初代・2代目VEZELの開発責任者代行（設計領域）、3代目VEZELの開発責任者（企画段階）を歴任。今回、新型INSIGHTの開発責任者を務める。



市場にインパクトを与える唯一無二の個性。

SUVが人気を博すなか、あらゆるシーンで存在感が際立つ個性派EVの創造をめざし、「OUTSTANDING IMPACT — 存在感際立つ、個性派EV —」を開発コンセプトに設定。鋭い刃をイメージさせる刺激的なフォルムで唯一無二の個性を表現する一方、運転のしやすさや広い後席空間などにより圧倒的な心地よさを両立させました。

新型INSIGHT開発での主な取り組み

■エクステリア

「Knives out」をテーマに、鋭い刃をイメージさせる刺激的なフォルムを追求

■インテリア

「Sukkiri comfort」をテーマに、開放的な空間と五感に訴える仕立てで圧倒的な快適性を追求

■HMI(ヒューマン・マシン・インターフェイス)

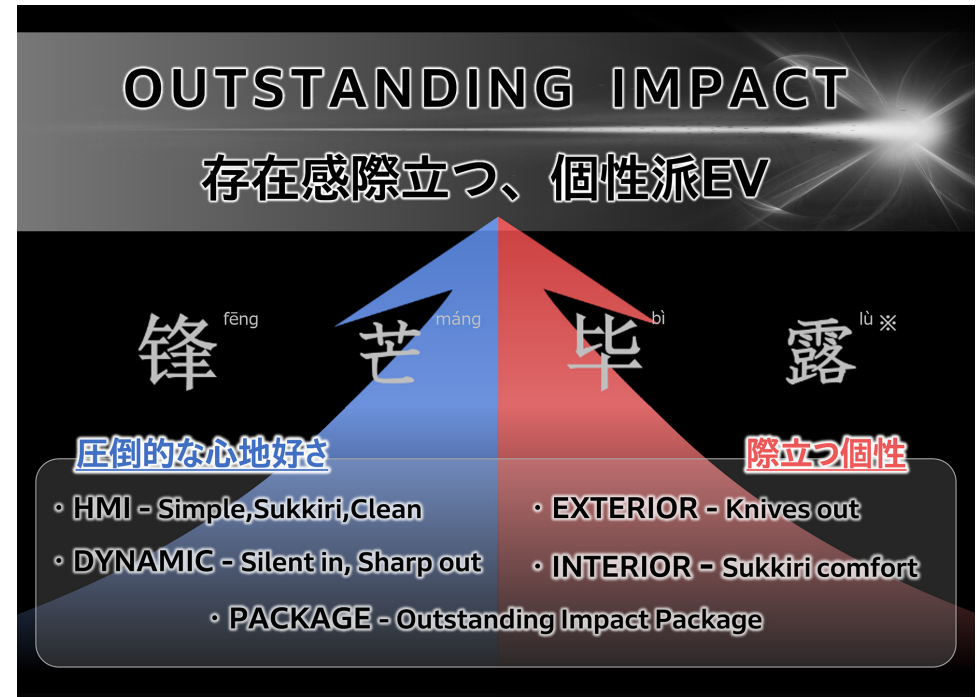
「Simple, Sukkiri, Clean」をテーマに、運転のしやすさに寄与する瞬間認知・直感操作を追求

■パッケージデザイン

「Outstanding Impact Package」をテーマに、運転がしやすい視界や後席空間の拡大を追求

■ダイナミック性能

「Silent in, Sharp out」をテーマに意のままに操れる“手の内感”を追求



※ 「鋒芒毕露」は「鋭さを誇示する」の意。

エクステリア



圧倒的な存在感を放つ、唯一無二のクロスオーバーSUV。

エクステリアデザインは、開発コンセプト「OUTSTANDING IMPACT」がめざす個性的なEVを具現化するために、「Knives out」をテーマに、鋭い刃をイメージさせる刺激的なフォルムを追求。前後に一気通貫したシャープな塊が力強く前進する様を表現し、圧倒的な存在感を創出しました。



■ フロントビュー

EVの象徴として採用した発光Hマークを中心に、横基調のヘッドライトと機能灯体をシームレスに統合。鋭さを感じさせるアイコンックな表現により躍動感と先進感を強調しました。



■ リアビュー

リアデザインは、フロント同様の横基調ラインと「く」の字モチーフにより統一感を創出。シンメトリーかつ拡がりを感じさせる表現でSUVとしての堅牢さを醸し出すとともに、大きく傾斜させたリアピラーとリアウインドウの造形によりラゲッジスペースの使いやすさを予感させています。

圧倒的な存在感を放つ、唯一無二のクロスオーバーSUV。



● アイコニックな灯体表現

薄くシャープな横基調のラインランプと「く」の字表現により、ワイド感を強めながら個性を際立たせました。また、前照灯を外側に配置することで点灯時のワイド感をさらに高めています。



ポジションランプ

デイトタイムランニングランプ

ターンシグナルランプ

ロービーム

ハイビーム



● ワイド感とシャープさを両立させたリアコンビネーションランプ

フロントをリフレインする薄型テールランプでワイド感を強調。象徴的な「く」の字モチーフは、レーザーカットティングにより緻密な多重表現とし、先進的な見え方を実現しました。



テールランプ

ストップランプ

ターンシグナルランプ

バックランプ

シャープな造形美を引き立てるボディーカラー。

■ ボディーカラー

ボディーカラーは、アッパーミドルクラスの本格EVとして、先進感と社会との融和を追求。シャープな造形美を最大限に引き立てるとともに、車内の快適性が外観からも感じられるカラーをラインアップしました。



ダイヤモンドダスト・パール
空を舞う氷晶の輝きをイメージした、特別なニュアンスカラー。



クリスタルブラック・パール
漆黒にパールがきらめく、ニュアンス豊かなブラック。



スレートグレー・パール
柔らかい光が差し込む早朝の都会をイメージした、モダンなグレー。



アクアトーンズ・メタリックII
透明感あふれるみずみずしいライトブルー。



オブシダンブルー・パール
黒曜石のような深みと透明感をあわせ持つ、ダークブルー。

■ ホイールデザイン

ホイールは、アッパーミドルクラスの風格を醸し出す大径18インチのノイズリデュースアルミホイールを装備。シャープでリズムカルな造形をスモークで仕上げ、彫刻のような立体感と上級感を創出しました。



インテリア



開放的な空間と五感に訴える仕立てがもたらす圧倒的な心地よさ。

インテリアは、「Sukkiri comfort」をテーマに圧倒的な快適性を追求しました。「Less is more(少ないほうがより豊かである)」の考え方のもと、「豊かさは、装備や加飾の数ではなくわずらわしさからの解放にある」と定義し、広さ感やすっきり感を重視。ゆとりある室内を、乗員をやさしく包み込むラップアラウンドレイアウトで構成し、本革シートをはじめとする上質な素材をぜいたくに採用。高級ラウンジを思わせる心地よい空間をつくりあげました。



■乗員をやさしく包み込むラップアラウンドレイアウト

水平基調のシンプルな構造としながらコーナー部をおおらかにラウンドさせることで広さ感と包まれ感を創出。インストルメントパネルからリアドアまで連続させたライン状のアンビエントランプで包まれ感を一層高めました。手の触れる箇所にはソフトパッドをぜいたくにあしらひ、手触りのよい本革シートと合わせ高級ラウンジのくつろぎを再現しています。



■運転に集中できるコックピットまわり

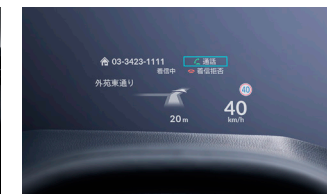
水平基調のクリーンなインストルメントパネルに薄型メーターを一体化しメーターバイザーを廃止。エアコンのアウトレットもインストルメントパネルに溶け込むデザインとしました。加えて楕円形状のステアリングホイールを採用することで、優れた前方視界と足元空間の拡大を実現しています。大型ヘッドアップディスプレイを備え、運転に必要な基本情報は視線を移動せずに確認できます。



9.4インチデジタルグラフィックメーター



センセティックレザー楕円ステアリングホイール



ヘッドアップディスプレイ(11.5インチ相当)

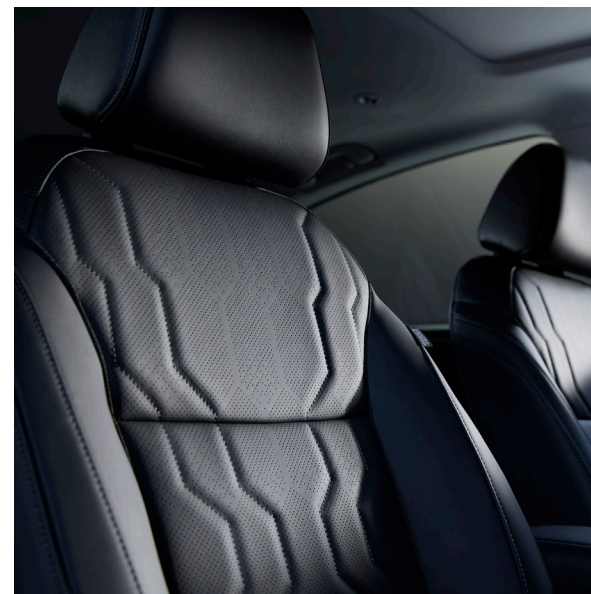
インテリアデザイン ②

シックでスポーティーなブラック内装に加え
「Honda ON」専用にホワイト内装を設定。



■インテリアカラー

シックでスポーティーなブラック内装に加え、新車販売オンラインストア「Honda ON」専用仕様として、洗練感が際立つホワイト内装を設定しました。



■しっとりとした手触りの本革シート

全タイプに本革シート*を採用。ハニカム柄と幾何学調ラインで未来的な印象を与えました。

※ フロントシート・リアシート(左右席)のメイン部に本革を、その他の部位は合成皮革を使用。

感覚のみならず情緒にまで訴える、圧倒的な心地よさ。

室内を圧倒的な心地よさで満たすために、人間の感覚のみならず情緒にまで配慮しながら先進装備を採用。快適な温度の維持はもちろん、香りや光の演出から臨場感あふれるサウンドまで、多彩な演出が極上の時間をもたらします。

■アロマディフューザー

室内に好みの香りをもたらすアロマディフューザーを、国内向けHonda車としてはじめて装備しました。アロマカートリッジを3本まで装着でき、気分に応じて選択が可能です。



●アロマカートリッジ

全6種類の香りをラインアップ。「プリミング ビガー」を標準装備し、5つの香りをディーラーオプションで用意しました。

- 1 プリミング ビガー [標準装備品]
- 2 ジェントル ウインド
- 3 セリーン アスピレーション
- 4 インテンス ウィルダネス
- 5 テンダリー プレジャー
- 6 リバレイト スプリング



アロマカートリッジ



アロマカートリッジ装着口

■インテリジェントヒーティングシステム

電力消費を抑えながら快適な暖房を提供するインテリジェントヒーティングシステムを、国内向けHonda車としてはじめて採用しました。シートヒーター、ステアリングヒーター、フロントドア内側とインパネ下部に配置したインテリアヒーターが、早期に暖かさを提供します。これらと連動しエアコンの温度・風量を抑えることで電力消費を抑制。電費向上に貢献します。



加温イメージ

■LEDアンビエントランプ

インストルメントパネルからリアドアまで、乗員を包み込むようにライン状のLEDアンビエントランプを採用。スマートに車内を彩るだけでなく、ドアオープン時の注意喚起やエアコン温度調節のアンサーバックを行います。



●ドア開連動 (注意喚起機能)

開けたドアのライン照明をアンバーで点灯。乗員と側方通過車の注意を喚起します。

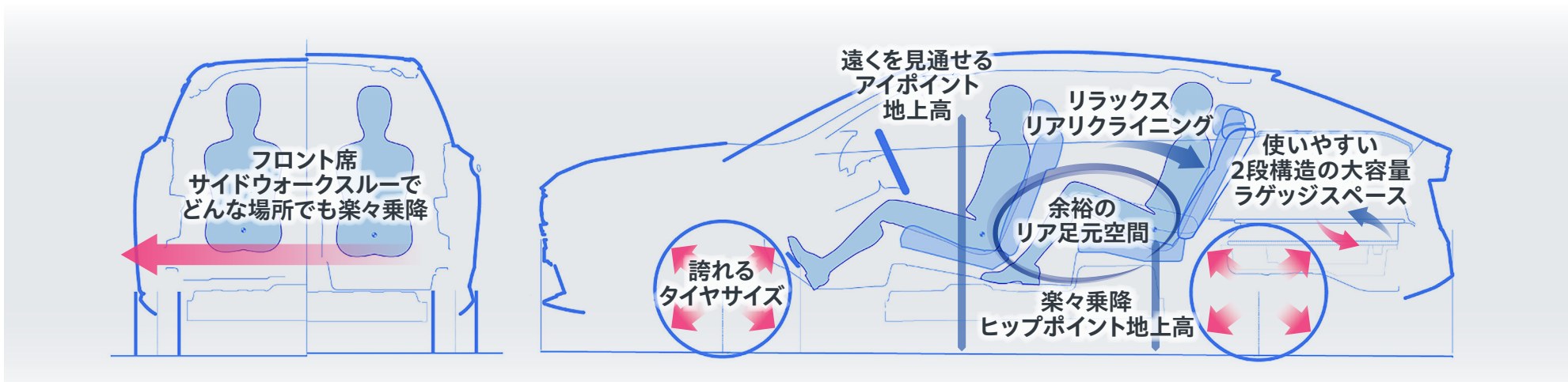
●エアコン温度調節連動 (アンサーバック機能)

エアコンの設定温度を上げた場合は赤、下げた場合は青で点灯しアンサーバックします。

パッケージ

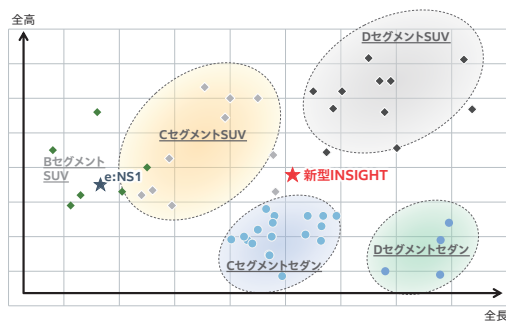


際立つ個性と心地よさを両立させる高効率パッケージデザイン。



唯一無二のスタイリングと都市型SUVとしての心地よさを両立させる、理想的なパッケージを追求しました。既存のセグメントには属さない独特なプロポーションを創出したうえで、M・M思想に根ざした人中心の空間設計を徹底。乗り降りや運転のしやすさはもちろんのこと、後席の快適性を充実させ圧倒的な心地よさを実現しています。

既存のセグメントに属さない独特なプロポーション



■優れた乗降性

前後席ともにヒップポイント地上高を適度な高さに設定し、乗り降りを容易にしました。また、前席のサイドウォークスルーを実現し、ドライバーが助手席側からもスムーズに乗り降りできます。

■運転のしやすさに寄与する
アイポイント地上高

全高を個性的なスタイリングに寄与する低さに抑えながら、前席アイポイントを高く設定。SUVらしい見晴らしのよさが運転のしやすさにつながるうえ爽快感を高めます。

■後席快適性

後席にゆとりの足元空間を創出。リアシートはリクライニング機構を備えたうえ、高反発・高減衰ウレタンパッドを採用することで高周波振動を低減しました。リラックスした姿勢で快適に移動できます。

快適な使い勝手のラゲッジスペース&ユーティリティー。

ゆとりの居住空間を確保しながら、大容量で使い勝手のよいラゲッジスペースを追求しました。2段構造とリアシートフォールドダウンでさまざまなシーンに応えます。センターコンソールの

収納は、自然に手が届く配置としながらフレキシブルな使い方に対応し、収納性とサイドウォークスルーを両立させました。

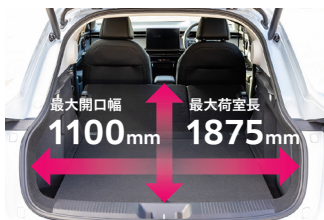
■さまざまなシーンに応えるラゲッジスペース



●積み降ろしがしやすい掃出しラゲッジスペース
カーゴグリッドを上段にセットすれば開口部との段差がないフラットなラゲッジスペースとなります。リッド下には汚れ物などを分けて収納することができます。



●大容量ラゲッジスペース
カーゴグリッドを下段にセットすればより広大なラゲッジスペースになります。9.0型ゴルフバッグや29インチタイプのスーツケースが3個※収納できます。

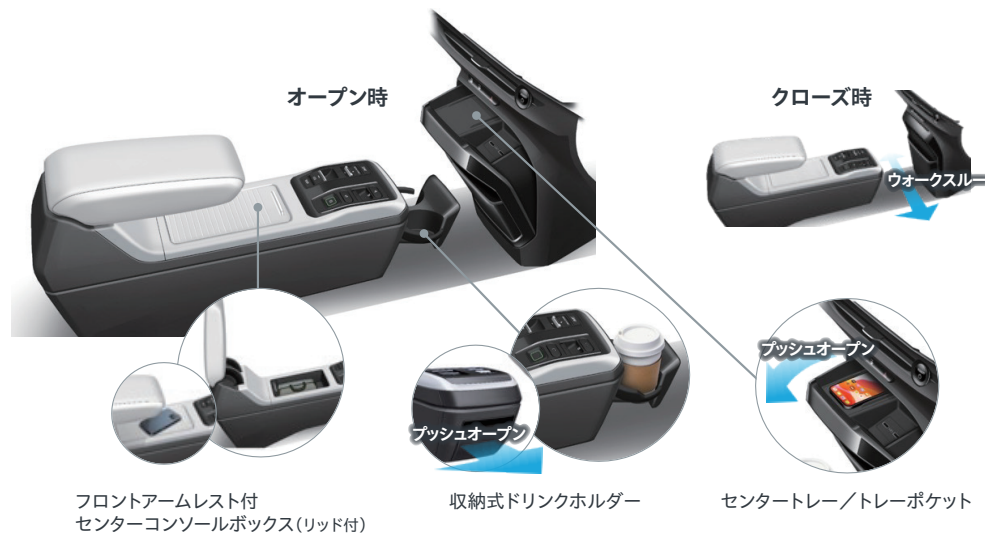


●ロングラゲッジスペース
カーゴグリッドを上段にセットしリアシートをフォールドダウンすれば、最長1875mmのラゲッジスペースが完成。スキー板など長尺物の積載に対応するほか、車中泊ができるスペースを容易に生み出せます。

※ 形状・サイズ等によっては積載できない場合があります。

■フレキシブルな収納性とサイドウォークスルーを両立させたセンターコンソールまわり

センターのドリンクホルダーとトレーを収納式とすることで、非使用時のすっきりとした見え方とサイドウォークスルーを実現しました。センタートレーにはワイヤレス充電器と急速充電対応のUSBジャックを搭載。ワイヤレスイヤホンやUSBケーブルの収納も可能です。



* イラストのため、実際の仕様とは異なります。

ダイナミック性能



意のままに操れる「手の内感」と圧倒的な「心地よさ」の両立。

ダイナミック性能は、ドライバーが意のままに操れる「手の内感」を追求。同乗者に対しては、高級ラウンジを思わせる快適な室内で存分にくつろげるよう、なめらかでフラットな乗り心地と静粛性の提供をめざしました。実現に向けては、大トルクモーターなどEVならではのパフォーマンスに驕ることなく、クルマの本質的価値を追求。「走る・曲がる・止まる」を、精緻かつバランスよく磨き上げることでめざす性能を実現しました。

匠^{Jiàng} 心^{xīn} 独^{dú} 運^{yùn}
精緻につくりこむ
クルマの本質的価値
OUTSTANDING IMPACTS
#一触未来

意のままに操れる**手の内感**
クルマを支配し、狙い通りに動いて
決まると気持ちいい

圧倒的な**心地好さ**
同乗者もストレスなく、自分のしたいことに
集中できる移動空間

ダイナミック性能 目標イメージ



■ 駐車場〜市街地

- 意のままにスッと動き、ドライバーにも同乗者にもストレスを感じさせないドライバビリティ
- 思い通りの減速と自然な挙動で安心感の高いブレーキフィール

■ 高速道路

- 安心感・安定感の高い車両姿勢
- 長距離ドライブでも疲れを感じさせないスムーズ&フラットな乗り心地
- 会話やエンターテインメントがストレスなく楽しめる優れた静粛性

■ 郊外路

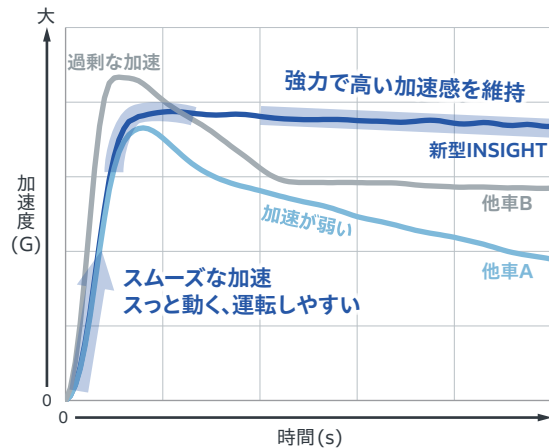
- 路面の性質や環境が変わっても安心して対応できるスムーズなステアリングフィール

モーター駆動ならではの力強い加速と スムーズな減速をもたらす思い通りの走り。

■加速性能

アクセルを踏み込んだ瞬間から大トルクを発揮するモーター駆動の魅力を生かしながら、ドライバーが「意のまま」と感じられる加速特性を追求しました。発進時、アクセルワークに呼応し加速度をリニアに立ち上げる一方、過剰な加速度で不安を感じさせないよう絶妙にコントロール。高い加速感を持続することで、力強さと扱いやすさを両立させました。

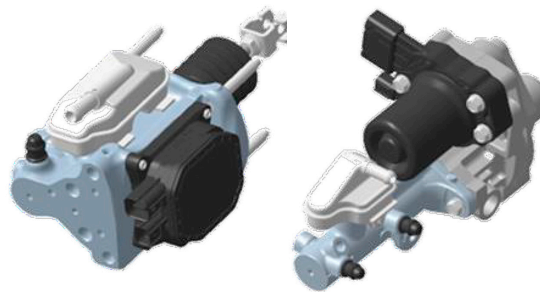
加速性能比較イメージグラフ



■減速性能

フロントブレーキに大径17インチのディスクを採用。制動力を緻密に制御できる電動サーボブレーキシステムの特長を生かし、応答性とコントロール性に優れたブレーキフィールを追求しました。

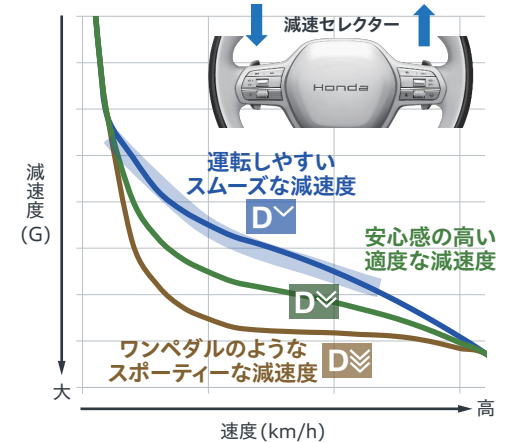
電動サーボブレーキシシステム



■シーンに応じて減速度を選択できる減速セクター

ステアリングパドルの操作によりアクセルオフ時の減速度を選択できる減速セクターを、新型INSIGHTに最適化して採用しました。右左折手前の予備減速や、降坂路での加速抑制、先行車との車間維持などに効果を発揮します。新型INSIGHTでは、もっとも減速度の高い3段目の制御を強め、多くのシーンをアクセルペダルの操作だけで加減速できるスポーティーな設定としました。

減速度イメージグラフ



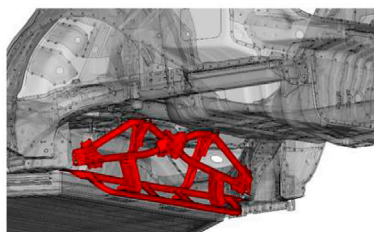
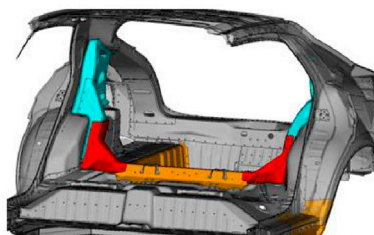
意のままの走りを安心感高く。

大トルクモーターの走りを安心感高く楽しんでいただくために、走りを支えるボディーとシャーシを徹底的に磨き上げました。ボディーは安心感への影響が大きいリアの高剛性化を追求。

サスペンションは周波数応答型ダンパーの採用などにより優れた減衰特性を獲得しました。これらにより、あらゆる路面で不要な挙動変化を抑え、安心感の高い走りを実現しました。

■高剛性ボディー

リアサスペンションの取付点をつなぐクロスメンバーの板厚や断面形状を最適化するなど、リアまわりの高剛性化を行いました。

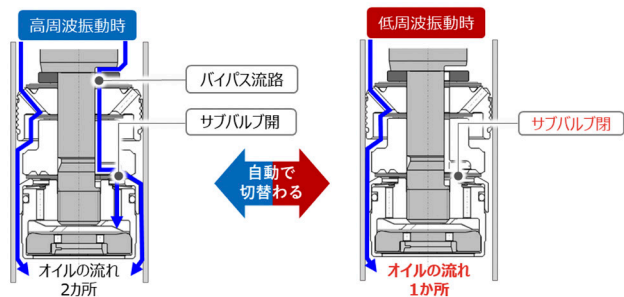


■サスペンションシステム

フロントにマクファーソン・ストラット式、リアにH型トーションビーム式サスペンションを採用。周波数応答型ダンパーにより、乗り心地と操縦安定性を高い次元で両立させました。

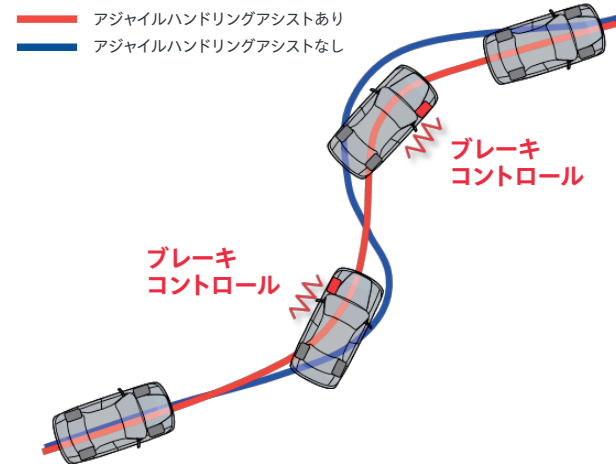
●周波数応答型ダンパー

メインバルブのほかにサブバルブを備え、シーンに応じた最適な減衰特性を発揮します。フラットな路面でストロークが短く振動周波数が高いときはメインバルブとサブバルブの両方を作用させ、細かな振動を吸収してフラットライドで快適な乗り心地を提供。コーナリングなどストロークが長く振動周波数が低いときにはメインバルブのみを作用させ優れた接地性を発揮します。



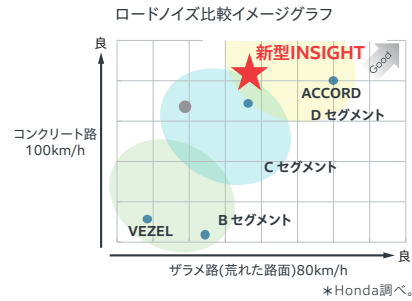
■アジャイルハンドリングアシスト

ドライバーが意図する走行ラインを推定し、旋回内側の前輪ブレーキを制御することで回頭性やライントレース性を向上させるアジャイルハンドリングアシストを、新型INSIGHTに最適化して採用しました。ワインディングなどでの走行のほか、雪道でのスムーズな走りや、緊急回避時の操縦性向上に貢献します。



■ 静粛性

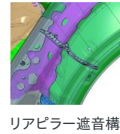
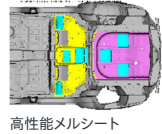
エンジンを持たないEVは、ガソリン車やハイブリッド車に対してパワートレイン系ノイズが圧倒的に小さいという利点があります。新型INSIGHTでは、ロードノイズと風切り音を徹底的に低減することで、EVならではの静かな走りをさらに際立たせました。



● ロードノイズ低減技術

代表的な防音材

● 防音材の最適配置

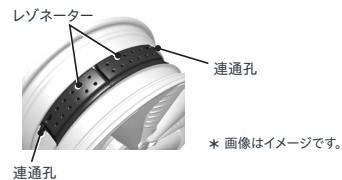


● アクティブノイズコントロール

室内に設けたマイクを通じてノイズの周波数を特定し、逆位相の音をスピーカーから放射することでノイズを打ち消します。

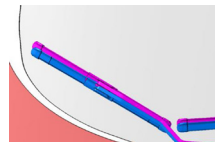
● ノイズリデュースアルミホイール

ホイールに装着した中空構造のレゾネーター(消音装置)が、高速道路のつなぎ目を越える際や、粗い路面を走行する際にタイヤ内部で発生する不快な共鳴音を抑制します。



● 風切り音低減技術

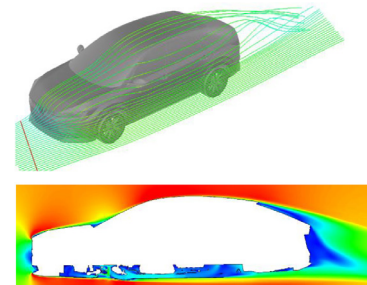
ワイパーの格納位置やフロントピラーの形状などを工夫することで風の流れをスムーズ化。前後のドアウインドウには遮音タイプのガラスを適用し、風切り音を抑制しました。



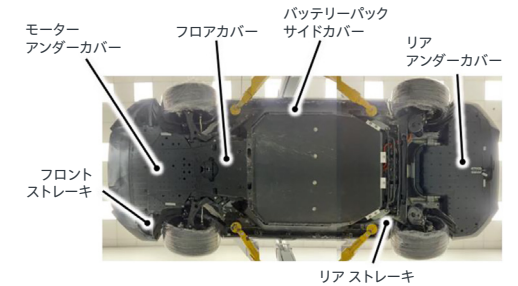
■ 空力性能

EVにおける空力性能は、航続距離や電費に影響します。新型INSIGHTでは、シャープな外観に加え造形面の処理を細部まで吟味し、さらにボディ下面をフルフラット化することでCD値(空気抵抗係数)を低減しました。前面投影面積と合わせた指標では、他のHonda SUVに対し同等以上の優れた空力性能を獲得しています。

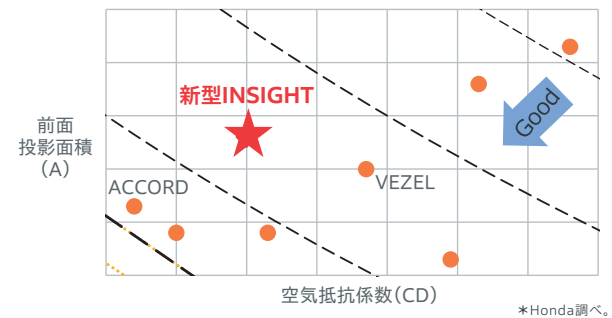
造形面の最適化



フルフラットアンダーカバー



空力性能比較イメージグラフ



ドライブモードスイッチ／アクティブサウンドコントロール

■ドライブモードスイッチ

シーンや気分に応じて走りのキャラクターを選択できるドライブモードスイッチを採用。センターコンソールに配置したトグルスイッチで直感的に操作できます。



●SPORTモード

アクセルペダルの踏み込みに対する駆動力特性を高めにし、レスポンスの良い加速を提供。アクティブサウンドコントロールによるスポーティーな加速音を楽しめます。

●NORMALモード

走り、電費、快適性のトータルバランスに優れたモード。ドライブモードスイッチのデフォルトモードです。

●ECONモード

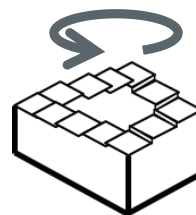
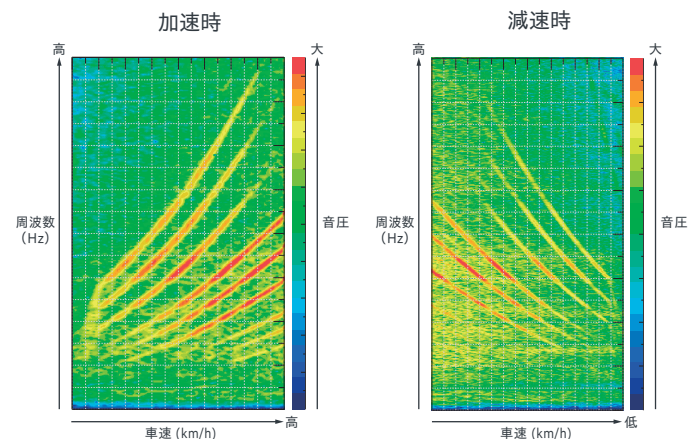
NORMALモードよりも出力を抑えめにし、エアコン風量を低く制御。軽快な走りを維持しながら低電費運転に貢献します。

●SNOWモード

滑りやすい路面でのスムーズな加速、減速、旋回を実現するために駆動力を制御します。

■アクティブサウンドコントロール

SPORTモード選択時に、車速やアクセルペダル開度と連動したEVサウンドを提供することで高揚感を高めました。加速時だけでなく減速時にも発することで、ガソリン車におけるエンジン音同様の加減速インフォメーションを提供し運転のしやすさにも貢献します。



●無限音階を利用したEV向けアクティブサウンドコントロール技術

EVの特徴であるシームレスな加速にマッチしたサウンドを提供するため、無限音階を利用した独自の技術を開発しました。オクターブの異なる複数の音を同時に鳴らし、高音を徐々に小さく低音を徐々に大きくすることで、音が無限に上がり続けるように感じられる現象を応用。車速と連動しどこまでも伸びていくような加速サウンドを実現しました。加速時のみならず減速時にも作動させることで、車両との一体感をより高めています。

パワーユニット



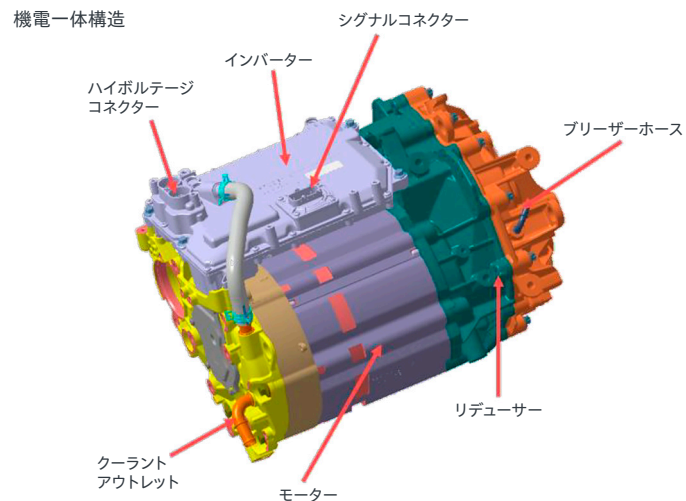
力強い走りとゆとりある航続距離 そして、広い室内を実現した高効率パワーユニット。

モーター、ギヤボックス、インバーターを統合した機電一体構造のe-Axleを採用。最大310N・mという強大なトルクで胸のすく加速を提供します。バッテリーパックは195Ahの大容量リチウムイオンバッテリーを搭載したうえで温度管理システムを採用。バッテリーを最適な温度に保ち、年間を通じて安定した性能を発揮させます。

モーター最大トルク	310N・m [31.6kgf・m] / 90-4,621rpm
モーター最高出力	150kW [204PS] / 4,621-4,900rpm
一充電走行距離※1	国土交通省審査値  ※2 535km
バッテリー総電力量※3	68.8kWh

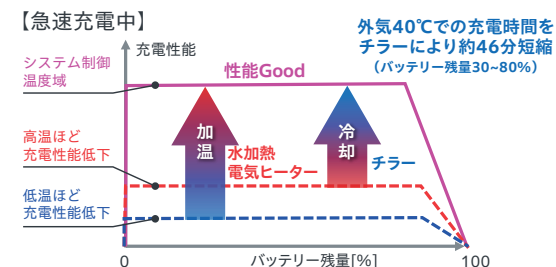
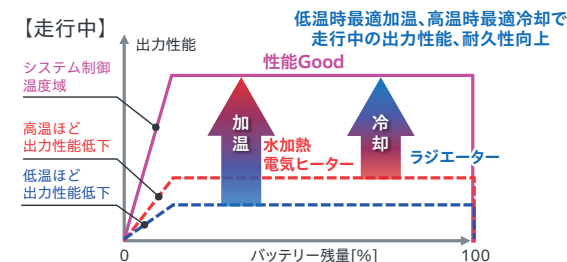
■e-Axle

機電一体構造により小型化を実現。モータールームのスペース効率を高め、デザイン自由度やゆとりある室内空間の確保に貢献しました。



■バッテリー温度管理システム

リチウムイオンバッテリーは温度が低すぎても高すぎても性能が低下し、航続距離や充電性能に影響します。新型INSIGHTでは、水加熱電気ヒーターやチラー※4などによる温度管理システムを採用し、バッテリーを適温に保つことで安定した性能を発揮させます。



※1 一充電走行距離は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて一充電走行距離は大きく異なります。
 ※2 WLTCモード: 市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モード。
 ※3 総電力量は、車両に搭載した電池のエネルギー量を表しています。国連危険物輸送動告の定義に基づき算出した値であり、電圧(V)と容量(Ah)、セル数によって求められます。

※4 冷媒を用いて冷却水を冷やす装置。

自宅でも外出先でも優れた充電性能で手軽に充電。外部給電にも対応。

自宅はもちろん、さまざまな充電スポットを効率的に利用できるよう、普通充電と急速充電に対応しました。普通充電は普及が進む6kW充電器に対応。急速充電は80kW充電器に対応しました。充電ポートにLED照明とインジケータを備え、充電時の利便性にも配慮しています。



■ 普通充電(6kW 約10.5時間)^{※1}

近年、普及が進む高出力タイプの6kW普通充電器に対応。バッテリーの温度管理などによって充電効率を高めました。

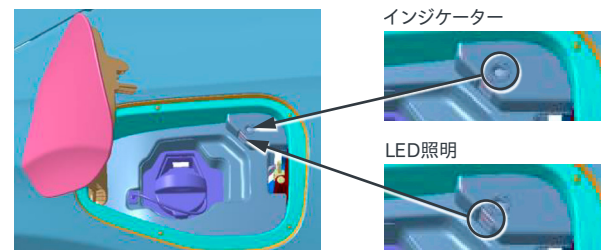


■ 急速充電(80kW 約40分)^{※2}

サービスエリアや商業施設など高出力化が進む公共充電スポットでの充電を想定し、80kW急速充電器に対応しました。

■ 使いやすさとわかりやすさを追求した充電ポート

充電ポートに装備したLED照明は、リッドを開けてから約3分間点灯。夜間充電時の利便性を高めました。充電インジケータは、満充電時に青色で点灯。嵌合不全などエラー時には赤色で点灯するなど、充電状態をわかりやすくお知らせします。



■ どこでも自在に給電

別売のAC外部給電器「Honda Power Supply Connector(パワーサプライコネクター)」を利用すれば、最大1500Wの給電ができます。アウトドアでホットプレートや電磁調理器を利用するなど、楽しみ方が拡大します。



Honda Power Supply Connector

※1 普通充電は、充電残量警告灯が点灯した時点から、満充電までのおおよその時間。

※2 急速充電は、充電残量警告灯が点灯した時点から、充電量80%までのおおよその時間(特に、夏季・冬季には充電時間が長くなる場合があります)。

オーディオ & コネクティビティ

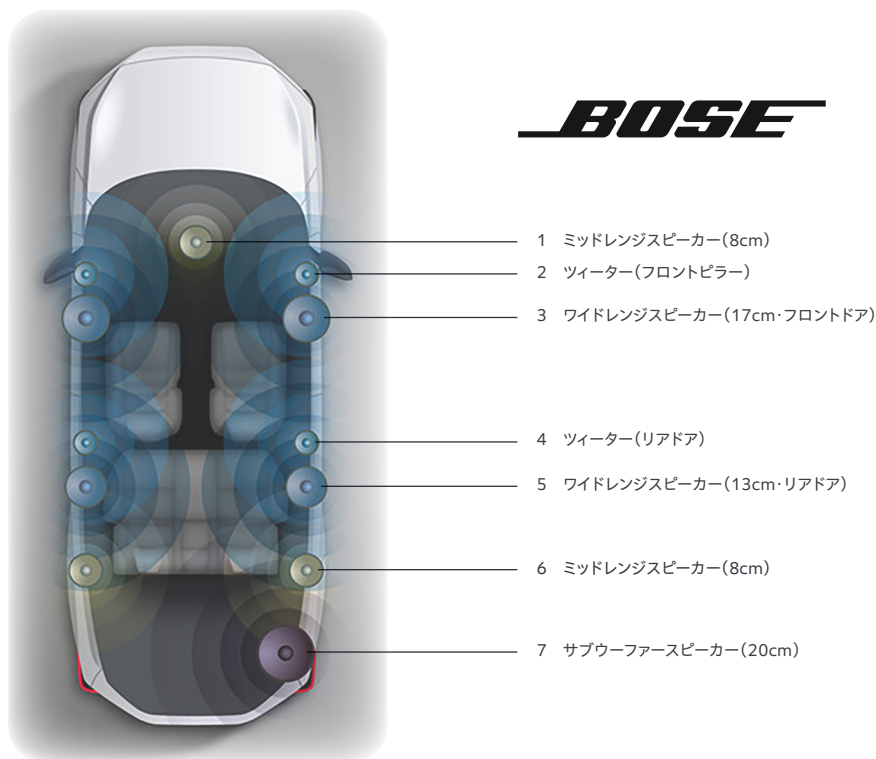


静かな室内で楽しむ極上の音楽。

EVならではの静かな室内で音楽などを思う存分楽しんでいただくために、BOSE社とHondaが共同開発した専用オーディオ、BOSEプレミアムサウンドシステム(12スピーカー)を標準装備しました。BOSE社独自の音響技術「Centerpoint」と「Dynamic Speed Compensation」

に加え、新型INSIGHTに最適な専用チューニングにより、まるでコンサート会場にいるような臨場感あふれるサウンドが味わえます。

■ 新型INSIGHT専用音場設定



■ BOSE社独自の音響技術

● **BOSE Centerpoint**
BOSE社独自のアルゴリズムでステレオ(左右2チャンネル)音源をマルチチャンネルに変換。広大で臨場感あふれるサラウンド体験を実現しています。

● **BOSE Dynamic Speed Compensation**
車速に応じて、周波数ごとに音量を最適に調整。走行状況の変化に影響されにくい快適なリスニング体験を提供します。

安心・快適なEVライフをサポートする Honda CONNECT & コネクテッドサービス。

「Honda CONNECT」は、Honda車とお客様をつなぐ専用の車載通信モジュール。Honda CONNECTを活用した独自のコネクテッドサービスにより、お客様の安心・快適なEVライフをサポートします。

■12.8インチ ディスプレーオーディオ

Honda CONNECT対応のディスプレイオーディオを標準装備しました。大画面の利点を生かし、目的の機能が素早く選択できるようゾーニングや階層、表現を工夫。見やすく、直感的に操作できます。



■Honda Total Care

「Honda Total Care」に加入することで、EVライフをサポートするさまざまな機能を無料でご利用いただけます。「リモート充電・給電サポート」では、お客様のスマートフォンでバッテリー残量の確認や充電開始時間の指定などが可能です。



●充電状態リモート表示

いつでもどこでもスマホ1つで充電状態を確認できます。

●充電待機時間設定

電気代が割安な時間に充電することで、電気代の高騰を防ぎます。

●最大充電量設定

充電最大量を設定することでバッテリーの劣化を防ぎます。



●お出かけ前タイマー設定

車内およびバッテリーの温度を調整し航続可能距離を最大化します。

●最大電流量設定

充電中のブレーカー落ちや、電気代の高騰を防ぎます。

●外部給電下限SOC設定

キャンプなどで外部給電される際、下限を設定することで、電欠を防ぎます。

■EVカーナビ by NAVITIME

株式会社ナビタイムジャパンが提供するスマートフォン向けEV専用カーナビアプリ「EVカーナビ by NAVITIME (以下、EVカーナビ)」と機能連携し、バッテリー残量を考慮したルート案内(充電スタンドの追加)や航続可能範囲の地図表示など、EVドライブの不安を軽減する案内を実現しました。Honda Total CareのアカウントでEVカーナビにログインし、車両を選択することで、新型INSIGHTとEVカーナビが連携。バッテリー残量などの情報をリアルタイムで反映し、高精度の航続可能距離予測に基づいて案内を行います。

EVカーナビ by NAVITIMEの主な機能

●経路充電計画

ルート検索時に、車両のバッテリー残量推移を予測し、残量が少なくなる地点付近のEV充電スタンド情報と照らし合わせ、自動で充電場所と充電時間を組み込んだルートを表示します。

●航続可能範囲表示

車両のバッテリー残量に基づき、地図上に航続可能範囲をカラーで表示します。充電せずに目的地に到着できるかどうかの判断に役立ちます。

●充電スタンド検索

充電スタンドの空き状況や周辺施設(店舗、トイレなど)の情報を提供。充電中の時間を有効活用できます。

●目的地・経由地ナビ送信

EVカーナビで設定した目的地や経由地を、車載ナビゲーションに転送できます。



経路充電計画

航続可能範囲表示

安全性能

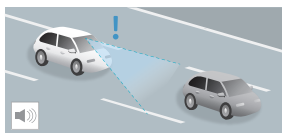


安心・安全な移動をサポートするHonda SENSING。

街なかで

ぶつからないために

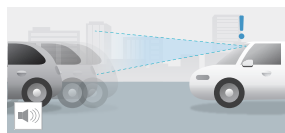
衝突軽減ブレーキ (CMBS)



CMBS: Collision Mitigation Braking System

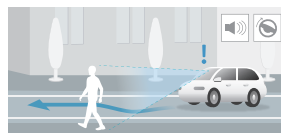
発進をお知らせ

先行車発進お知らせ機能



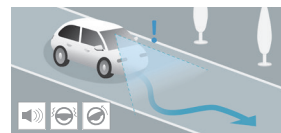
歩行者に配慮

歩行者事故低減ステアリング



はみ出さないために

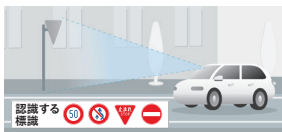
路外逸脱抑制機能



街なかで

みのがさないために

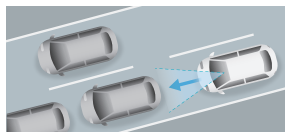
標識認識機能



高速道路で

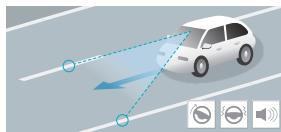
適切な車間距離を保つために

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)



ぶつからないために

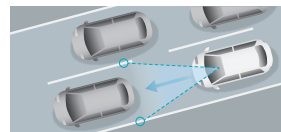
車線維持支援システム (LKAS)



LKAS: Lane Keeping Assist System

ぶつからないために

トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能)



高速道路で

斜め後ろのクルマをお知らせ

ブラインドスポットインフォメーション



駐車場で

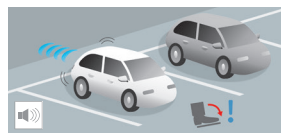
飛び出さないために

誤発進抑制機能*



不意の後退を防ぐために

後方誤発進抑制機能*



ぶつからないために

近距離衝突軽減ブレーキ*



駐車場で

駐車も出庫もスムーズに

パーキングセンサーシステム



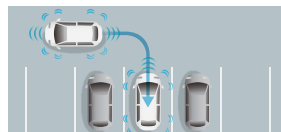
左右から近づくクルマをお知らせ

後退出庫サポート



スムーズに駐車するために

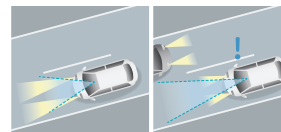
Honda パーキングパイロット



夜間に

良好な視界確保のために

オートハイビーム



■Honda SENSINGは、ドライバーの運転支援機能のため、各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。各機能の能力を過信せず、つねに周囲の状況に気をつけ、安全運転をお願いします。車両をご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みください。各システムは、いずれも道路状況、天候状況、車両状態等によっては作動しない場合や十分に性能を発揮できない場合があります。■衝突軽減ブレーキ (CMBS) は、約5km/h以上で走行中に自車との速度差が約5km/h以上ある車両や歩行者、人が乗車して移動する自転車に対して衝突するおそれがあるとシステムが判断したときに作動し、停止または減速することにより衝突回避や衝突被害の軽減を支援します。■先行車発進お知らせ機能は、先行車との車間距離が約10m以内で、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。■歩行者事故低減ステアリングは、約10km/h〜約40km/hで走行中、システムが歩行者側への車線逸脱と歩行者との衝突を予測したときに、ステアリング操作による回避を支援します。運転者のステアリング操作に代わるものではありません。運転者が加速やブレーキ操作、急なステアリング操作を行っているときシステムが判断したとき、また、ウインカーを作動させている場合には作動しません。■路外逸脱抑制機能は、草、砂利などの道路境界や対向車両に接近した場合は約30km/h以上で、白線(黄線)の場合は約60km/h以上で走行中、システムが路外への逸脱を予測したときに作動します。運転者のステアリング操作に代わるものではありません。運転者が加速やブレーキ操作、急なステアリング操作を行っているときシステムが判断したとき、また、ウインカーを作動させている場合には作動しません。■標識認識機能は、最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識を認識し、メーターとヘッドアップディスプレイに表示します。一時停止、車両進入禁止は約60km/h以下で走行中に作動します。■渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) は、先行車がいる場合、停車中から作動し、先行車がない場合は、約30km/h以上で走行中に作動します。先行車に接近しすぎると、ブレーキペダルを踏みこんで適切な車間距離を保ってください。高速道路や自動車専用道路を運転するときに使用してください。■車線維持支援システム (LKAS) は、約65km/h以上で走行中に作動します。運転者のステアリング操作に代わるものではありません。運転者がステアリングから手を放した状態や、運転者が意図的に車線を越えるようなステアリング操作をしているとき、また、ウインカーを作動させている場合は作動しません。■ブラインドスポットインフォメーションは隣接する車線後方の検知エリア(見えにくい位置)に他の車両がいることを知らせるシステムです。二輪車等が検知範囲に入ったときなど、条件によっては正しく作動しない場合があります。車線変更や合流時には必ず目視やミラーなどで周囲の安全を直接確認して運転してください。■誤発進抑制機能は、停車時や約10km/h以下で走行中、自車のほぼ真正面の近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだことにより、衝突するおそれがあるとシステムが判断したときにパワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止します。■後方誤発進抑制機能は、停車時や約10km/h以下で後退中、自車のほぼ真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだことにより、衝突するおそれがあるとシステムが判断したときパワーシステム出力を抑制し、急な後退を防止します。■近距離衝突軽減ブレーキは、約2km/h〜約10km/hで走行中、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとシステムが判断したときに、ブレーキを制御し停止または減速することにより衝突回避や衝突被害の軽減を支援します。■パーキングセンサーシステムは、車両や周囲の状況によりシステムが正しく作動しない場合があります。システム使用時も直接目視で周囲の安全確認を行いながら運転してください。■後退出庫サポートは出庫時の安全確認をサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。天候、積載荷重などの影響を受け、システムが正しく作動しない場合があります。■Honda パーキングパイロットは、ドライバーの運転支援機能のため、システムの性能には限界があります。周辺状況、天候状況、車両状態などの条件によっては作動しない場合や十分に性能を発揮できない場合があります。システムの能力を過信せず、つねに周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキを踏みこんで安全運転をお願いします。■オートハイビームは、約30km/h以上で走行中に作動します。ハイビームとロービームの自動切り替え制御には状況により限界があります。必要に応じて手動で切り替え操作を行ってください。

* 「誤発進抑制機能」、「後方誤発進抑制機能」、「近距離衝突軽減ブレーキ」を組み合わせて「踏み間違い衝突軽減システム」と呼びます。

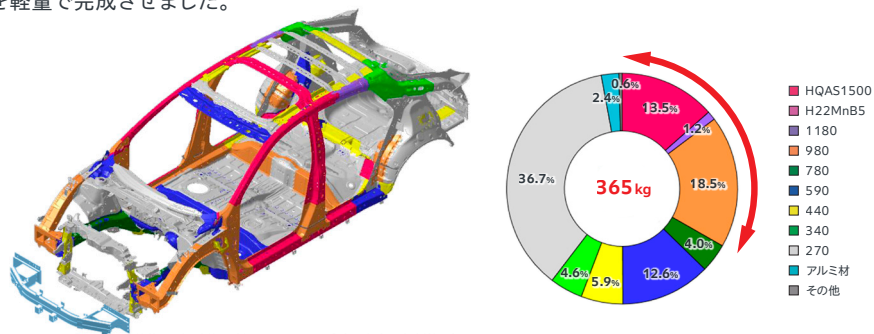
■ イラストは機能説明のためのイメージ図です。

乗員保護はもちろん、高圧電気に対しても高水準の衝突安全性能を実現。

Honda独自のGコントロール技術に基づく全方位衝突対応ボディーをベースに、多様な安全装備で優れた乗員保護性能を備えました。また、コンパティビリティ対応ボディーと歩行者傷害

■高効率ボディー骨格

高張力鋼板のなかでも特に軽量で強度に優れた980MPa級以上の鋼板をボディー骨格の約3分の1に採用したほか、アルミ製バンパービームの適用などにより、優れた剛性と高い衝突安全性能を持つボディーを軽量で完成させました。



■エアバッグシステム

「運転席用&助手席用i-SRSエアバッグシステム」「前席i-サイドエアバッグシステム+サイドカーテンエアバッグシステム」に加え、側面衝突時に前席乗員同士の頭部衝突を防ぐ「フロントセンターエアバッグシステム」を標準装備。

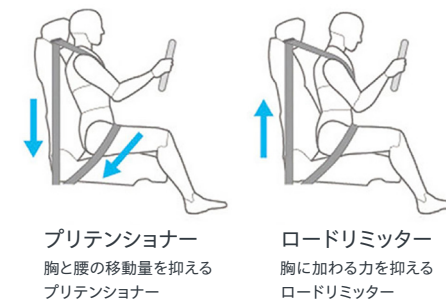


フロントセンターエアバッグシステム *写真は左ハンドル車

軽減ボディーを採用し、相手車両や歩行者に与えるダメージ軽減にも配慮。バッテリーパックなどEVで懸念される高圧電気に対しても、搭載構造を工夫し高い安全性を確保しています。

■フロント3点式ロードリミッター付プリテンショナーELRシートベルト+運転席/助手席ラッププリテンショナー

運転席/助手席のシートベルトは、前方向からの強い衝撃を感知すると瞬時にシートベルトを巻き取り、体をしっかり固定。その後、一定以上の荷重がかかると、シートベルトを少し送り出し、胸などへの負担を軽減します。さらに、ショルダー側のプリテンショナーに加え腰ベルト外側にもプリテンショナーを採用。乗員の拘束効果をいっそう高めることにより、傷害の軽減をめざしました。



プリテンショナー
胸と腰の移動量を抑える
プリテンショナー

ロードリミッター
胸に加わる力を抑える
ロードリミッター

■高電圧部品保護構造

バッテリーパックのブラケットを衝突エネルギー吸収部材として機能させることで、万一の衝突時にも内部のバッテリーセルに力が加わらないよう配慮。モータールームのe-Axleや高電圧補機類は、配置を工夫することで前面衝突時に部品どうしがすれ違う構造とし、高電圧部品の保護と広い室内空間の確保を両立させました。

